

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム延寿園 ユニット 延	評価実施年月日	平成19年12月15日
評価実施構成員氏名	管理者 飯田 康雄 主任介護員 若狭 美子 計画作成担当 出村 知子 玉山 好子		
記録者氏名	玉山 好子	記録年月日	平成20年1月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	その人らしい、当たり前の生活を保障するという点では、その人らしく暮らしていくことを支えていると思う。	○	低料金で入居できるという点が当ホームの特徴であり理念であるので、今後も実施していきたい。
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	経済的負担の少ないグループホームという点は実施している。	○	毎日理念を読み上げて、スタッフ全員が忘れないよう復唱していくようにしたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	低年金者、経済的に余裕のない方にも受け入れられるようIFホームの一角に理念を掲示し、誰にでも理解してもらえるようにしています。	○	もっと地域推進会議やインターネットにも掲載して、皆さんに広く行き渡るようにしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とはあまり付き合いはなく、気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気はない。	○	今後お祭りや、フリーマーケット等の行事を取り入れ、地域や隣近所との付き合いを深めていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	いまのところ、地域活動の参加はあまりしていない。	○	味覚祭り、さくらんぼフェスティバル等の行に参加するようしていきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	当事業所のデイサービスの機能訓練室を地域の交流や会議の場として提供して役立つように使用できるよう運営推進会議で発言している。	○	言うだけでなく、実際に使用していただければ良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>サービスの向上のため改善点を明確にし、取り組んでいる。</p>	○	<p>評価表を出入り口におき、皆が分かるようにして具体的な改善をしていきたいと思う。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>事例検討や利用者の様子等を報告し、皆様の意見を伺い、サービスの向上に活かしている。</p>	○	<p>運営推進会議を活かした取り組みをもっと行っていきたいと思う。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>介護保険の更新認定のときや住所変更の時等に行き来する機会はあるが、市町村の方も忙しいので話す機会がない。</p>	○	<p>もう少し市町村の方とお話する機会を作れば良いかなと思います。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者は理解しているが職員は学ぶ機会があまりなく、勉強不足のために活用して支援することはできていない。</p>	○	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を作りたい。(ケアカンファレンス等で行いたい。)</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待が行われているとは思っていないが、起きた場合はすぐ注意をして防止に努める。</p>	○	<p>介護者は虐待しているつもりではないと思っていることも、入居者側からみるとどうなのかな、ということもあげて考えていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>	○	<p>現状のままでよいとは思いますが、もっと上手に説明していければもっとよいと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情を職員や管理者は気軽にいつでも話せる雰囲気を作って聞いており、運営にも反映させている。</p>	○	<p>居室で苦情を聞いたり、苦情等を業務状況記録や日報等を利用して反省の材料を記録している。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>ホーム独自の便りを月1回発行し、家族等に配布している。</p>	○	<p>今後も内容に変化があるようにもっと充実したものにしていきたいと思っている。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情等は受け入れ、改善しており、意見・不満も今後の参考として取り入れ、運営に反映させている。</p>	○	<p>ご意見や苦情等を記入できる用紙を作り、これらを利用して運営に反映させている。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>意見や提案は一応聞いてくれるが、たまに忘れていることがある。</p>	○	<p>メンバーの入れ替えや役割交替等の提案は聞く耳をもってきたように思われる。</p>
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>努めている。</p>	○	<p>入浴日の午後からは若干人数を多くするなどして調整している。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>配慮している。</p>	○	<p>職員の異動は少人数で行っており、入居者へのダメージは少ないと思われる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	現在は研修を受ける機会はあまり確保されていない。不足していると思う。	○	もっと職員に研修を受ける機会を作っていただきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	職員の一部は同業者と交流している。ネットワーク作りにも気をつけて人脈作りに励んでいる。	○	他施設の見学や訪問の機会を一部の人だけではなく、皆がそれぞれ作っていけるようにしたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>①シフト上でたまに連休を入れるなどしてリフレッシュできるようにしてくれる。</p> <p>②親睦会、忘年会、新年会のどれもが実施されていないので軽減されていない。(出席したい人のみでよいが行いたい)</p>	○	1Fにも休憩できるコーナー(長いす等を置く)を作っていただきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員の資格取得には理解はあるが、理事長や管理者は、努力や実績をどの程度把握しているか、定かでない。	○	時間や賃金等について、面接時に多少考慮してくれていると思う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>①信頼関係はできていると思うし、そうなるように努力していると思う。</p> <p>②良心的であるよう努力し、受け止めている。</p>	○	本人が訴えてきたときに聞いており、今後もそのように聞いていく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	上に同じ。	○	お小遣い等、たくさん預けられない家族や支払いが滞っている家族にも立て替えや延滞等を許していて、入金を待っていてあげることもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一応、本人の希望を入居当時に家族も含め聞くように対応している。	○	この際はショートやデイサービスや訪問等も含め、そのときに合ったサービスの提供から、まず始めている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の精神状態をみながら、段階的に他入居者さんと徐々に馴染めるように工夫はしている。	○	上に同じ。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	昔ながらの料理の仕方を聞いたり、昔の方言や言葉を学んだり、編み物等を習ったりして共に楽しく暮らしている。	○	もっと利用者さんと手芸や編み物、工芸や書写等をし、色々な作品作りをお互い教え、教わっている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	通院をご家族の方がくださったりして、一緒に入居者本人を支えている関係も築いている。	○	もっと多くの家族が当ホームに来て利用者や職員等と一緒に足浴や爪きり等をして支えてほしいと思う。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	電話や手紙等を利用してよりよい関係を保てるようにしている。	○	これまで以上に気軽に当ホームに立ち寄っていただけるよう、呼びかけを行っていく。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	当ホームに来て頂いたり、もしくはどうしてもという場合は家に連れて行ったりしている。	○	これまで以上に気軽に当ホームに立ち寄っていただき、また当ホームの入居者も気軽に外出していただけるよう支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ひとりが孤立している場合、介護員が間に入り、話しかけ、入居者同士がコミュニケーションを取れるようにかかわっている。	○	もう少し入居者同士が気軽に居室等へ遊びに行けるよう、声かけをしてかかわっていきようにしたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	していない。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	そのようにしている。	○	よりいっそうの把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他機関からの情報や家族からの情報を元にフェースシートや経過支援等を記録し、把握に努めている。	○	上に同じ。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	そのように努めている。	○	上に同じ。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日のミーティングや申し送り、ケアカンファレンス等の時に意見やアイデアを出していただき、それを元に介護計画を作成している。	○	今後も同様に行っていききたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しは行っているが、期間内に新たな計画は出来ていないので、期間厳守で作成していきたい。	○	期間に応じて見直しを行っているが今後は期間に間に合うよう作成していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護日誌や日報に記入していただき、それにより改善点を拾い出し、見直している。	○	個々の記録をもう少し記入を多くして充実した記録にし、それを見ながら介護の実践をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況、状態、要望に応じ、事業所の多機能性を活かした支援をしている。	○	今後も多機能性を活かした介護の実施を柔軟にしていきたいので、要望をよく聞いて対応していくこととしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	入居者は民生委員とボランティア等によりのみ支援されている。	○	今後は文化、教育機関等との協力を仰いでいく活動をし、呼びかけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	当ホームより他ホームが該当すると思われる場合は、そちらに支援してもらえるように協力している。	○	これからも他サービス事業者やケアマネジャーとの関係を密にしていけるような努力をしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	一応している。	○	これからは協働をもっとしていければ良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	通院、往診、健康診断等で支援をしている。電話等も活用している。	○	今後も提携していきたいが、看護職と気軽に相談が出来るように、なお一層の努力をして入居者の支援をしていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	そのように支援している。	○	今後もそのように支援していけるよう努力していきたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	そのように支援している。	○	今後もそのように支援していけるよう努力していきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	電話連絡をしたり、直接伺ったりしてそのように連携している。	○	今後も同様に続けていきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ミーティングを行い、主任や管理者が代表してかかりつけ医等と相談している。	○	看護師がいないのでターミナルケアは、当ホームでは大変難しいと思われるが、将来はひとりでも対応していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	できないこととしては、ターミナルケアで看護師がいないので行えないが、少しでも当ホームで長くケアできるよう、日々介護員の勉強は怠らず、インターネットより資料を取り寄せ、準備や検討を行っている。	○	今後は重度化や終末期に向けたチームでの支援をひとりでもできるよう対応したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	フェースシート、情報提供書、基本情報等で情報交換をしているので、ダメージは防がれていると思う。	○	家族や本人にかかわるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換がたまに行われていないので気をつけていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉には気をつけるということ、お年寄りを敬う対応をするようにしていると思う。	○	失礼な対応はしていないと思うが、まれにあった場合は反省をし、今後の活動に取り入れる。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	言葉がうまく話せない人には筆談を行うなどして、理解してあげられるように支援している。	○	自己決定権を大切に、介護員もかかわっていければと思う。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個人の希望は簡単なことならすぐ希望通りにしていくよう支援している。	○	もっと希望に沿って支援をしていきたいが、職員の勤務状況に合わせざるを得ないときもあり、今後は気をつけて支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	そのように努めている。	○	本人の希望を尊重して対応している。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを取り入れ、食事をし、後片付けは職員と個々の利用者の力を活用し、出来る事は行っていただいている。	○	今後は、選択メニューも週1回くらい設けていけるよう、会議等でも話し合っって検討していきたい。(食事の楽しみの点で)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	コーヒー等の嗜好品は、飲みたいかどうかの声かけをし、飲みたいものを提供している。	○	飲み物だけではなく、おやつ等の食べ物も、好みのものを提供していけるようにしたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗のある人は、必ずトイレに付き添うようにし、汚さないように座り方などを指導している。	○	もっと皆の排泄パターンを把握し、時間でリハパン交換や清拭を行うこともできるようにがんばっていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	いまのところ、曜日や時間帯を決め、職員の都合で行っている。	○	今後はひとりひとりのタイミングや希望に合わせて、入浴をゆっくり気持ちよく楽しめるように支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者の希望に沿って支援している。(体調の悪いときは別)	○	今後も入居者の希望に沿って支援していく。(体調の悪いときは別)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者に昔は何をしていたかを聞き、楽しい話や気晴らしが皆でできるように支援している。	○	今後は映画の日を作り、皆で鑑賞していきたいと思う。(月1回)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	何人かは所持して使えるので、その人たちは計算等を自分でっており、脳の活性化につながっていると思う。	○	今(冬場)は職員が1度購入してきたもののお金を計算してもらい、夏場は一緒に行って直接買物をしてお金を払ってもらうようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	①介護員と徒歩や車で、希望時やホームでの買物時に戸外に出かけている。 ②畑や日光浴等にも出かけている。	○	冬以外はよく希望を聞き、散歩や買物に常時出かけていて、戸外に出る機会が多いほうだと思うのでこれからも続けたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	公園や広場やスーパーには行っているが、普段行けないところで行きたいところは分からないので聞いて支援していきたい。	○	普段行けないところで行きたいところや、他家族同士で出かけられる機会を作るようにして支援していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を書きたい方は、希望時に行っている。	○	今後もより一層、この点には取り組んでいきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問していただき、皆で楽しく少しでも話し、コミュニケーションをとるようにしている。	○	いつでも、気軽に当ホームに来て居心地よく過ごせるよう工夫していきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の講習に過去に何人が受講しており、身体拘束をしないケアをしている。	○	今後も身体拘束は当ホームでは行いません。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には鍵を、オートロックでかかるようにはなっているがその他はしていない。	○	今後も鍵をかけないケアに取り組んでいこうと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	毎日の様子は日誌や日報に記録し、申し送りもして安全であるよう努めている。	○	今後も同様な配慮をしていくようにしたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知症の進行に伴い、果物ナイフやはさみ等に気をつけ、段階的に排除する形をとっている。	○	今後も同様な取り組みで危険を防いでいきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	睡眠時等、介護員が何度か様子を見に巡回しているので危険に気がつけた介護もしており、事故防止に努めている。	○	ヒヤリハット、事故報告書等を活用し、同じ間違いがないように気をつけていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	定期的に行ってはいないので、定期的にするようにしていきたい。(ケアカンファレンスの時間にも)	○	急変時や事故発生時のマニュアルを再度作成して、勉強していくようにする。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害があったとき、どこに避難するかを運営推進会議で話し合い、場所を決められるようにしていく。	○	皆に協力を呼びかけ、災害時のマニュアルも作成していくようにする。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスク面は家族にあまり話していないので、今後はリスク面も取り入れた説明を行っていき、対応策も考えていくようにする。	○	入居者ひとりひとりのリスク面を居室担当(入居者担当)の職員に考えていただき、まとめていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ミーティングや申し送り時等に職員同士の連絡が行き渡るよう話し合い、日誌や日報にも必ず記入するようにしている。	○	今後も同様な対応をしていきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	日誌のファイルに服薬の用紙を必ず挟めるようにしているので、皆が分かるようにはなっているし、介護員も服薬が変わった場合、記入している。	○	職員同士でも変化があった場合、声かけて全員が把握しているような状態にしたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食物の工夫や運動は日々行っているが、水分摂取量も多少足りないと思うので、一層の摂取を心がけていきたい。	○	いろいろな飲み物を取り入れ、種類を増やしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、歯磨きや口腔洗浄を行い、清潔保持に努めている。	○	昼食後は行っている人といない人がいるので、昼食後も皆、きちんと取り入れたい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	糖尿病の方は、茶碗にご飯の量を何口くらいと決め、他入居者の量も目検討で職員が把握している。	○	もう少し細かく量や栄養バランスが分かるように、支援していければよいので、考えていきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	タオルや靴下等、別々に浸け置き・消毒(ミルトン、ミルクポン、オスバン、ハイター等)してから、洗濯や洗浄をしている。風呂の洗浄もミルクポンやオスバン消毒をしている。	○	今後も感染しないよう、充分に気をつけ、消毒をきちんと行っていこうにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	賞味期限切れの食物や暑いときの食物の管理に気をつけ、用具の消毒についてはセーフコール75やハイターを使い、管理している。	○	今後も同様に行っていくように努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	グループホーム延寿園とデイサービス華の玄関の色を変えてあるので、間違えることは少なく、訪問や居宅も玄関がすぐであり便利である。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレは汚れていたらすぐに掃除をしている。台所は狭く、物が置けないので工夫して置いている。あとは居心地がよいと思う。	○	台所にはエアコンが付いているので、夏場の暑い日でも快適に利用できる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間は居心地はよいが(居間)、ひとりになれるという場がないのでどこか一角に作りたい。	○	管理者と主任と一緒に考えていきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の居室の暖房の位置には気をつけ、本人や家族の好きな配置で物を置いたり、好みの物も使ったりしている。	○	本人が好きなように居室を使う等している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調節は介護員がまめに行い、においについては芳香剤や消臭スプレー等を購入して対応している。	○	外気温との大きな差がないように配慮していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	段差等はないので、つまづきはあまりない。動ける入居者は掃除や食器拭き等を行い、役割分担をしている。	○	もっと役割分担を設けて、入居者の力を引き出していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者同志でトイレや居室を教えたり、物事を教えあったりして、皆が助け合いながら混乱を防いでいる。	○	助け合いながらも各自、少しでも自立して暮らしていきたい。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑やパークゴルフ場や外の広場を利用し、入居者が活動できるよう空間や場を活用している。	○	花や食物を入居者と一緒にとくさん、育てて作っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない</p> <p>① ユニットごとに掴んでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない</p> <p>① 午前の10時半ごろと、午後の4時半ごろにある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 全員が自分のペースで暮らしているとは思われない。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>② 話や声かけで時により、上機嫌になっている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>③ 介護員の行くところについてくるという方が多いが、歩行の出来る入居者は自分で訴えたときに出かけている(買物)。その他は散歩と車椅子利用で戸外に出かけている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 健康管理については、毎日バイタルチェックを行っているので安心だと思う。医療面は提携している病院に協力を仰いでいる。安全面や介護面は、当ホームで工夫や勉強をし、不安を防いでいる。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない</p> <p>① 要望はほぼ聞き入れているため、安心して暮らしていると思う。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない</p> <p>② 一応、何でも相談しやすい状況は作っていると思う。当ホームに来てくださっている家族とはコミュニケーションが取れており、大丈夫だと思っている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p> <p>① 入居者のお友達や知人が気軽に訪ねて来ている。</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>③ もう少しPRをして応援者を増やしていきたい。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>② やる気があるのか、ないのか分からない時や人がいる。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>③ まだまだサービスには不足している面があると思われる。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>③ 物価高やホーム建設のため、支払いの面で不満が多々あるように思われる。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ホームが新築できれいで清潔であると思う(掃除にも力を入れている)。パークゴルフ場を屋上に作って楽しめるので大いに利用していただきたい。入居料が他より低く、低年金者でも入居できるようなホーム、事業所である。
従業員が他より色々な年代でおり、よいのではないかと思う。